

## ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書（2023年4月分）

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

### ◎日常生活

今月は、大学生活の他、課外活動である踊りの練習や行事に勤しみました。特に、新たに勉強を始めた楽器や舞踊劇の練習に集中しました。また、年明けから同じ舞踊教室で練習を続けてきた高校生たちの舞踊コンテストの本番があったため、その追い込み練習や、本番にも密着しました。

### ◎課外活動における学習状況

課外活動として、これまではバリの古典舞踊を中心に勉強してきましたが、今月からはスンドラタリ sendratari と呼ばれる舞踊劇の勉強を新たに始めました。スンドラタリは、インドネシア語で芸術を意味する seni、演劇を意味する drama、舞踊を意味する tari というそれぞれの単語を合わせて略したものです。その名前の通り、舞踊の型を保ちながら、ガムランの伴奏に合わせて展開してゆく劇となります。バリのスンドラタリでは、台詞は語り手や歌い手が担い、踊り手が直接台詞を発することはありません。そこで、スンドラタリに必要な要素である踊りと演技の作法、伴奏の音楽構造、歌い手による歌、それぞれに興味をもちました。

今回は、古代インドの叙事詩であり、世界的にも知られているラーマヤナ物語をバリのスンドラタリ形式にしたものを勉強することにしました。まだ練習は始めたばかりですが、決められた振り付けがなく、それぞれの登場人物の性格に応じた型を用いて演じながら踊ることは非常にむずかしいです。これまでとは違うものを習得するには時間も根気も必要ですが、長期滞在だからこそこできる新たな挑戦として向き合っていきたいと思います。

### ◎高校生たちによる舞踊コンテスト

私の滞在する州都デンパサール中の高校が参加する、舞踊コンテストの本番がありました。同じ舞踊教室で4カ月近く一緒に練習を重ねてきた高校生チームが参加するというので、当日も応援に行きました。約4ヶ月前、課題演目の振り付けを覚えるところから始め、動きを揃えたり、より表現を深めたりしてゆく練習過程をずっと一緒に見てきたため、煌びやかで立派な衣装を身につけて舞台に登場したときには私も感情が込み上げてきました。また、学校の名を背負って参加するチームメンバーを一生懸命に応援して盛り上がる他の生徒たちの姿も印象的でした。約30もの参加チームのうち3位入賞を果たすことができ、彼女たちが学校の勉強と並行してたくさんの練習を真剣に重ねてきた結果が形となったことを私も嬉しく思いました。また、本番数日前には芸能の神が祀られた寺院を訪れて参拝したり神々に対して踊りを見せるように踊ったりもしていました。これまでの積み重ねやこうした姿勢を神々も一緒に見守ってくれていたのかもしれない。



↑コンテスト数日前、寺院での通し練習の様子



↑コンテスト本番の様子